

見附市幼保小架け橋期のカリキュラム【ちごし保育園・上北谷小学校】

＜見附市教育委員会の基本理念＞

ふるさと見附を愛する子ども 世に役立つことを喜びとする子ども

①架け橋期を通して期待する子ども像																								
対象	5歳児												1・2年生											
②遊びや学びのプロセス	【学びの芽生え】 遊びや体験を通して、未知のことや分からないことを自分なりに考え、自分自身で納得するまで探究し続ける。(なんだろう…、やってみたい、できた、ねえみてみて、〇〇したいな、それいいね、どうするの)												【自覚的な学び】 生活科を中核として、自ら問いをもち自分自身で納得するまで探究し続ける。(あっ、こういうことか、もっと知りたいなやりたいな、こうしたらどうかな、みんなとやると楽しいな、やれた、よかった)											
時期	アプローチカリキュラム												スタートカリキュラム											
④園での活動・小学校での教科学習等	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
③指導上の配慮事項	保護者と保育士・教師のかかわり方 ◇子どもと共に考え工夫したり、挑戦や失敗を楽しんだりする中で、子どもの主体的に遊ぼうとする気持ちを支える。 ◇一人ひとりの気付きや考えを需要し、言葉にして他の児童に伝わるようにする。「〇〇さんはこう思うんだって、みんなどう思う？」 ◇子どもたちの思いや願いを受け止めつつ、友達と相談したり協力したりできるように支援(促す・見守る)する。 ◇自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを聞いたりする場を大切にする。												◇園での経験を引き出す投げかけから、子どもと問いをつくり、「やってみたい」「しりたい」「できるようにになりたい」と児童が主体的になる学習を工夫する。 ◇子どもの発言・つぶやきから、一人一人の成長や取組過程の様子を認め、学級全体に広げ共有する。											
環境の構成、環境づくり	◆子どもたちがやりたがっていることを見取り、主体的な遊びが展開できるような環境を構成する。 ◆小学校教育の資質・能力の育成につながる多様な体験を保障する。 ※活動の理解者、共同作者、共鳴者であり、子どもにとってあこがれのモデル、遊びや課題解決の援助者となる。												◆自由に思いを伝え合う場や雰囲気をつくり、言葉で伝え合う楽しさを感じられる場を設定する。 ◆経験や想像したことなどから、書くこと話すことを見つけ、ICT機器を活用しながら、伝える場面を設定する。 ◆自由に試して遊んだり、くつろげる時間や場所を設定する。やりたい、知りたい気持ちを引き出す図書・視聴覚資料を設置する。 ※教師の「やりやすい型」にはめるのではなく、子どもの思いを大事にする。											
⑤園と学校の子どもの交流	○ふたば児童会祭りや稲刈り式などの小学校の行事に参加や見学に行く(随時) ○体験入学で、年長と小学1年生が交流する。(2月) ○園を訪問して一緒に遊びなどの交流をする(8月夏祭り)												<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">運動会</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">幼児も参加できる種目を設けた</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">園児の児童会祭りへの参加</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">稲刈りでの交流(ちごし太鼓の発表)</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">就学時健診への参加・学校案内</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">秋・冬フェスティバルへの参加</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">入学説明会への参加・児童との交流</div> </div>											
⑥保育士と教師の連携	○園、小学校を互いに参観し、意見・情報交換会を行う(年4回) ○次年度の架け橋カリキュラムについて協議する(3月) ○保育園だよりを送付し、保育園の様子を共有する(随時)												<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">園・学校の経営方針の交流</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">園サークルタイム参観①</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">意見・情報交換</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">学習参観①</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">意見・情報交換</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">学習参観②</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">意見・情報交換</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">園参観②</div> </div>											
⑦家庭・地域との連携	○架け橋期のカリキュラムを保護者に配布し、小学校入学準備を促す。 ○保護者の進級に向けての不安や心配などを、進学先の小学校と共有する。 ○保育参観や園の行事を家庭、地域に発信し、園の様子を周知したり、一緒に参加してもらう。 ○地域の施設や地域行事に参加し、交流する。												○保護者に向けた架け橋プログラムの情報発信と協力要請 ○各取組の様子の情報発信 ○生活科の野菜作りを中心とした地域コミュニティやボランティアとの連携 ○感謝を伝える会の開催											